

令和元年度新見市地方独立行政法人評価委員会（第5回）議事要旨

1 日 時 令和 2 年 1 月 2 9 日（水） 9 : 5 5 ~ 1 1 : 4 5

2 場 所 市役所本庁舎 3 階 第 5 委員会室

3 出席者

(1) 評価委員会 岡崎委員長、中西委員、田中委員

(2) 事務局 小林課長、難波参事、稲岡主事

4 議 事

(1) 公立大学法人新見公立大学 中期計画（第3期）について

新見市（以下「市」という。）が定め、新見公立大学法人新見公立大学（以下「法人」という。）へ指示した「公立大学法人新見公立大学 中期目標（第3期）」に基づき、法人が作成した「公立大学法人新見公立大学 中期計画（第3期）」について、法人から市に対して認可申請が提出されたことを受け、新見市地方独立行政法人評価委員会による当該計画に係る意見等の聴取を行った。

詳細は、以下のとおり。

発言要旨（○委員、●市）	回答等要旨（○委員、●市）
<p>I 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育</p> <p>1) 教育の内容</p> <p>(1) 質の高い専門職教育</p> <p>○「国家試験等の高い合格率を指標」とあるが、直近で何%か。</p> <p>(3) 能力を高めるキャリア教育</p> <p>○文部科学省のアクティブラーニングの考え方の中には体験学習が含まれる場合があるが、別立てで体験学修と記載してある中ではどういったものがあるのか。</p>	<p>●看護学科では、看護師が新卒66人受験1人不合格、既卒1人受験1人不合格、保健師が新卒16人受験1人不合格、既卒1人受験1人不合格。助産学専攻科では、合格率100%。地域福祉学科では、介護福祉士が50人受験46人合格。幼児教育学科では、国家試験はなく、必要な単位を取得し卒業すれば幼稚園教諭及び保育士の資格を取得でき、53人が卒業した。</p> <p>●アクティブラーニングや体験学修の言葉の使い方は文部科学省の考え方によるものではなく、体験学習とは現場や地域に出向いて学修すること、アクティブラーニングとは、学内でのグループディスカッション等を意図する。</p>

○一つ目に専門性（（１）質の高い専門職教育）、二つ目に人間性（（２）バランスのとれた人間教育）とあるが、一般的に大学では職に就くことに焦点を当て、汎用的な能力（人間関係づくり、社会形成能力、自己管理能力）を身に付けることが求められていると思うが、現在の書きぶりでは詳細な項目についての記述になりすぎている。

2) 教育の実施体制

（１）柔軟で実効性の高い教育組織の構築

○教育組織についての内容が薄い。

○「全学的視点から柔軟で実効性の高い教育組織を構築する」とあるが、何を伝えようとしているのかがわかりにくい。現状の教育組織も全学的視点に立ったものではないのか。

（２）実践的な学修を目指した修学環境の整備

○「地域社会と一体」という表現があるが、地域社会の理解や協力が大切であり、大学が積極的に取り組んでいるため、受け皿となる地域や市も積極的に取り組んでいただく必要であると感じている。

●新見市は課題先進地であることから、大学では、地域共生社会を支える人材育成していかなければいけないことを踏まえての書きぶりであったり、介護の分野では外国人労働者も増えている状況を踏まえ、外国語能力について触れての書きぶりと考えられる。

●詳細に書く（コミュニケーション能力、基礎的な英語力等）必要はなく、社会人としての必要な能力といった書き方が良いかもしれない。

○社会人だけではなく、職業人としても。情報処理能力にしても、課題対応能力という大きな表現もある。この項目だけ詳細に踏み込んだ書きぶりになっている感じがする。

●中期計画に書き込みには詳細すぎるため、年度計画で書き込むことが適当。

○「地域社会と一体となった環境の整備については、…修学環境の改善に向けて取り組む。」とあるが、主語・述語の関係が文法的におかしい。

(4) 教育活動の評価体制の適正化

○「評価を適正に修学に生かすシステムを構築し、教育活動が適切に評価される体制を整える」とあるが、この評価は学生の評価か。それとも学部の評価か。

○評価を適正に修学に生かすシステムを今構築するのは遅いのではないか。構築は終わってなければいけないことであり、実際には構築が済んでいると考えられるため、「再構築」や「改善」といった表現でなければならない。

○地域人材や外部講師を活用しているが、その人達から教育活動の評価をもらい、結果を反映させなければ、質の高い教育とならない。

2 研究

1) 研究の内容

●授業内容の評価を指しており、授業を評価し改善することで教育活動を適正にする、ということを意図していると考えられる。

●市が中期目標の中で指示する教育評価システムによる教育成果の適正な評価とは、個々の授業のことではなく、大学全体の教育の評価を求めるものである。「(4) 教育活動の評価体制の適正化」の内容については個々の評価のことを指しているが、必要なことではある。評価委員会の評価のような外部からの大学教育に対する評価もある。

●大学の教育システムの評価は設置者である市がしなくてはならず、大学は教育活動についての評価しかできないという構図である。

<p>○中期目標では「社会の要請を踏まえた研究活動を推進する」とあるが、地域社会の要請を吸い上げることについての記述がない。</p> <p>(2) 研究活動の積極的な発信</p> <p>○大学は良いことを数多くしているが、十分に伝わっていない。</p> <p>2) 研究の実施体制</p> <p>○「実施体制」とあるが、設備や資金についてがメインであり、人材や組織について記載がない。</p> <p>○研究内容を見ると、中山間地域や新見に根ざした内容であり、グローバルとローカルな視点と銘打ってはいるが、ローカルな視点が強く、グローバルな視点がほぼない。</p> <p>3 学生の確保及び支援</p>	<p>●体系的には、フィールドワークにより学生が地域に出向き、現場の生の声を聞き、その声に対して何ができるか、ということだと考えられる。</p> <p>●日常的に学生と関わる時間を確保することは難しい。</p> <p>○関わっている人と関わっていない人との差が激しい。</p> <p>●これまでは短期大学の部分もあり、学生は勉強と実習で忙しかったが、4年制になり時間に余裕が生まれるため、その時間でどの様に地域と関わりを持つかである。</p> <p>○地域活動に学生が参加されることがあるが、5分だけでも良いので自分たちが学修していることについて紹介する時間を設けてもよい。</p> <p>●大学の研究は組織的ではなく、教員が各自独立して行っているが、大学は各自が研究できる体制を整えるという考え方である。</p> <p>●大学事務局案の段階では、「(1) 研究環境の充実」の年度計画の項目の中で、設備や資金に外の内容を盛り込まれることとなっている。</p>
--	---

<p>○中期目標にある「学生が目標を設定し、修学に専念できる環境整備に努める」についての記述が薄い。</p>	<p>●「学生が目標を設定」の表現には市と大学とで考え方に相違がある可能性がある。</p> <p>○学生が大学に入学したら、新たに個人の目標を設定すると理解した。</p> <p>○学生が目標を設定しやすい環境があることをPRすると良い。</p> <p>●「2）学生に対する支援」が中期目標の「修学に専念できる環境整備」に対する項目と捉えることができる。</p> <p>○「（2）細やかな学修支援」が「学生が目標を設定し、修学に専念」にかかっており、一人ひとりが持つ目標について、フェイスツーフェイスで対応しながら実現に向けて支援していくということを指しているのではないか。</p>
<p>（3）積極的な入試広報の実施</p> <p>○最近の高校生や短大生は新聞広告を見ない。情報発信手段として新聞広告をメインに記述しているが、大学のHPやSNSを活用する記述の方が効果的である。</p> <p>2）学生に対する支援</p> <p>○チューターは何人いるのか。</p> <p>○以前は担任制であったと認識しているが。</p> <p>○「新見公立大学ふるさと育英奨学金」はどこが所管しているのか。</p>	<p>●学科の実状応じて配置しているが、人数については把握していない。</p> <p>●今年度、チューター制に移行した。</p> <p>●大学である。ふるさと納税を一部原資として今年度から開始した大学独自の制度である。成績優秀者等の要件はあるが、年間10万円を給付するというもの。1学年当たり看護学科5人、地域福祉学科4人健康保育学科4人が対象である。</p>

II 社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

○「1）地域の「学びの場」」では「法人の職員」という表現、「2）学生ボランティアの「活動の場」」では「大学」という表現であるが、使い分けに意図があるのか。法人の職員には事務方の職員も含まれると考える。

2) 学生ボランティアの「活動の場」

○「地域課題研究活動への支援を推進する」との記述があるが、支援とは学生への支援か。それともボランティアへの支援か。

●参加する学生への支援である。ボランティアとして出向くこともあれば、自分たちの学修のために地域へ出向くこともある。地域での課題研究活動の支援として、例えば移動支援をイメージしている。学生の移動手段が大きな問題である。

III 地域に開かれた大学づくりに関する目標を達成するためにとるべき措置

○言葉として「参加」ではなく「参画」という表現にしているが、先ほども述べたように、活動の中で学生が思いを発言する場が取れるような参画の仕方を期待する。ただし、参画となると負担が大きくなることは心配である。

1) 大学施設の市民開放

○「市民や卒業生に愛され続けるように」とあるが、「卒業生」にはどのような意図があるのか。

●大学祭への来場や地元就職者のリカレント教育での利用をイメージしていると考えられる。

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1) 法人運営上の組織改善

○コンプライアンスについてを組織改善の項目に記述しておくべき。また、責任を明確にすると共に、意思決定を迅速にしていかなければいけない。物事が滞ったままということが一番の問題であるため、やるにしろやらないにしろ、意思決

定が正確にされていることが重要であるため、そのことを記述した方が良い。

2 人事の適正化

- 「大学運営上」「法人運営上」「自主運営上」を分類する意図はあるのか。
- 「大学運営上」とあるが、法人ではないのか。
- 「自主運営」とは法人か、大学か、市か。
- 全体的にわかりにくく、「2）法人運営上の人事適正化」のプロパー職員の採用は法人の採用であると読み取れるが、「1）大学運営場の人事適正化」のSD研修のスタッフは大学か。法人と大学の区別がわかりにくい。

V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 「1 自己収入の確保に関する目標」「2 外部資金の獲得に関する目標」「3 経費の抑制に関する目標」について、中期目標の内容をコピーしただけとなっているが、目標に対する計画になっていない。例えば「1 自己収入の確保に関する目標」であれば、学生数の確保が根本にはあるのであろう。具体的には年度計画に記載することになると思うが、その元になることを中期計画では記述しておかなければいけない。「2 外部資金の獲得に関する目標」であれば、時代に即した補助金等の調査・研究し、確保に努める、といった内容にしなければいけないのではないか。
- 「本学の将来性に配慮」とあるが、「将来性」とは何を意図しているのか。“学生が増加するから設備投資が必要である

”とか、“学生が減少するから経費の節減が必要である”というように、「将来性」を具体的に示した上で、計画を立てなければいけないのではないか。

VI 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 情報公開及び情報発信に関する目標

○一般的な法人では情報公開を求められれば開示しなければいけないが、大学法人ではどうなのか。

○市民からの情報公開の対応についての一文を加えなくて良いのか。記述しておかなければ限定的な情報公開と読み取れる。

VII その他業務に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

2 危機管理及び安全管理

○中期目標では「再構築」と記述してあるため、「再構築する」や「常に見直しを行いながら各種計画やマニュアルを継続して整備する」といった表現にした方が良い。

VIII 予算、収支計画及び資金計画

○収支のバランスが取れるように作成するのが一般的なのか。剰余金は記載しないのか。

○「収入」について公開講座収入が「－」となっているが、実際にはあるのではないか。

IX 短期借入金の限度額

2 想定される理由

○「…必要な費用として借り入れる事を想定する。」とあるが、「…必要な費用に

●HPを通じて財務状況等は示さなければいけないことになっている。

●収支がゼロになるように作成するのが一般的である。

●百万円単位なので表記されない

○単位に満たないということであれば、「0」と表記することが一般的であり、「－」では該当なしという意味である。

<p>充てるための資金として…」や「…必要な資金として…」といった表現が適切である。</p> <p>○借入金の決定権についての規定はあるのか。</p> <p>XⅢ 新見市地方独立行政法人法施行規則で定める事項</p> <p>1 施設及び設備に関する計画</p> <p>3) 経済性の重視した整備</p> <p>●「経済性の」ではなく「経済性を」が正しいため修正する。</p>	<p>●大学内であるはずである。借入上限額については、中期計画で決めることとしており、その範囲内で理事会等で決定するものと思われる。</p>
---	--

(2) 次回会議について

令和2年2月14日(金)10:00から、市役所本庁舎3回第5委員会室で、本日委員からいただいた意見等を元に修正した中期計画の修正案の確認を行う。